娼妓地理記　全

へ七百八十[illegible]

へ15
1963
12

侶舥地理記

序

書林のもとめいなみがたく。余が旨
意をかりて折ふし。本店のあるじ
介吉原細見ちかころもとめ来る
たゝ見るは七月の大改。盆米
ふとん婦好遊ぶさけ。傾國

百軒亡八百人むらふの人む世話
なさけの頭北郡の情なかこん
く此頃の生臭あしらい実。
うそ誹謗縁子筋薄命中小。
かきつけこにたちはけて御算
の道ふ居いけもせぬへめゐれ

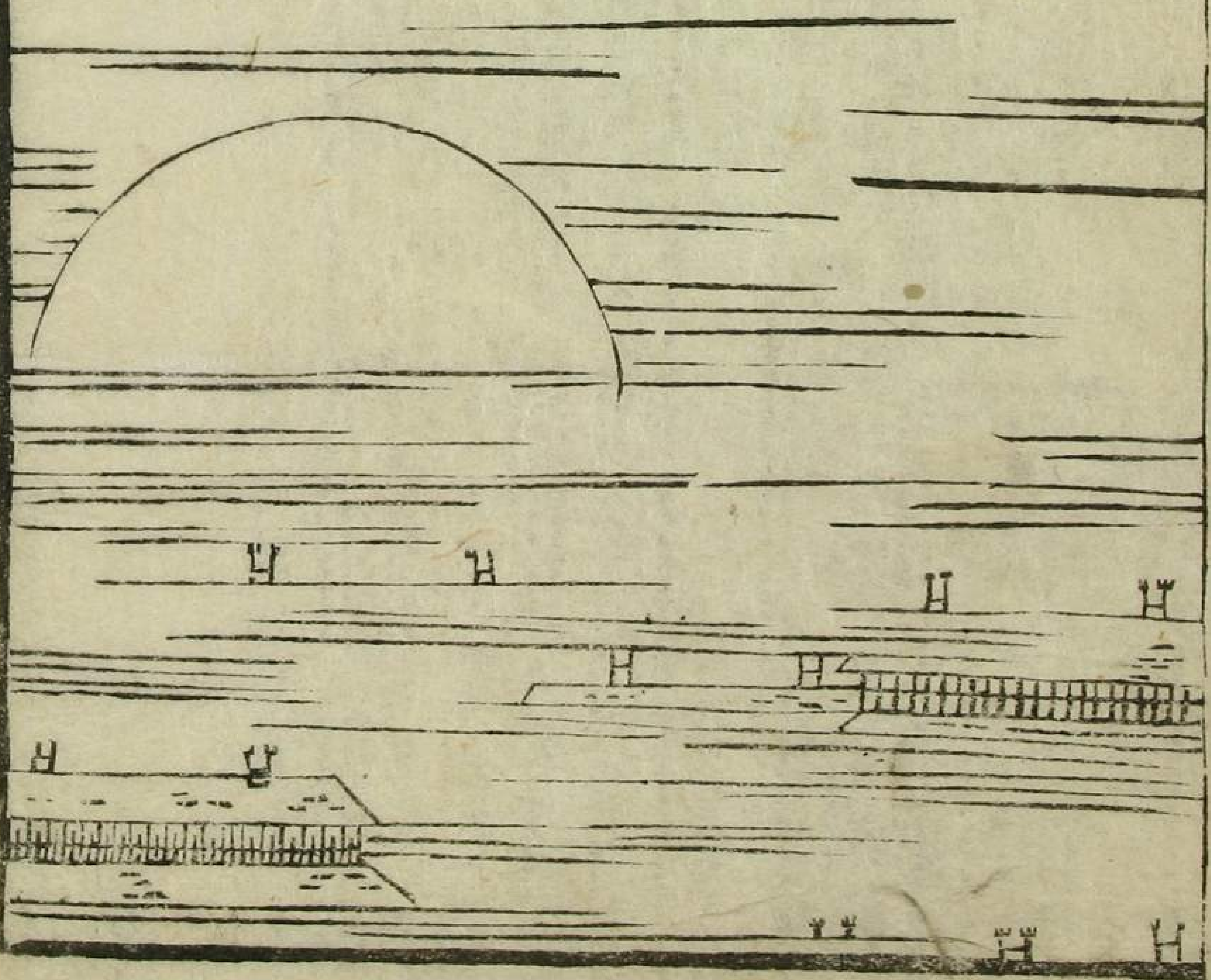
えど此穴を見て小田原もれし。
しもつりとも覚悟のごとく
夫ハ外郎是ハ青楼。川乃
流れの淫色しく／＼。茶色
黄表紙や口拍子時乃調子で
とりかくまで。媚姫地理記と

題するのミ
安永むつのとし大呂
道蛇楼麻阿記

歌倡妓地理記譜曰

乙乙樓中婦

風流譬諭評



娼妃地理記

扶桑東武の北にあたりて一と洲ありける。傾城國の原始を尋ぬるに日本國常立尊より天神七代地神五代と續き其天神七代目の男神を伊弉諾尊と申し新造を伊弉冊尊と申たてまつる。其比は未だ天地の物もなければ

そもそも家とはいへども。天の岩くら
のとぼそ開くよりのひ。鼻柱とまうすはしら
をぐらんとおつけなひしより。二柱の御神
とはやとうや。此時三ッぶとんハ敷まして。天注
すもない時代なれども。夫婦の御神ハ土べ
たふだくこまと落てもひたとうとしるかと。余り
濕深ふゆつゞき法目覚めて終くしい。臣下
いさめやけるこれ南財きりかとりかるの

監觴之。此時鶺鴒といふ鳥を師匠として
きて。あるのまくだひとゆゝしゆゝしきやらのさかん
ぶくあんとゆゝいふわざを初めなひて。日本
うはまぐりの開山。陰陽の親玉とハなり玉ひ
みひけるよな天の浮橋を新後まて。ひの玉
の逆鉾をさゝりとぬきて。よいの原たる
めつさむせうにさぐりのひしに。ひの原乃
足のうらと股の下をさぐりのふ時。芦原

甚こそたゆがりてありけりまろびつ笑ひしゆく。許のしてござれいのごとくなり股の往来くこうかわりて下の島となりける。これを南膽部州豊葦原大日本国と号けば又おのころ嶋といふも彼いのこの皆なりし。其後これを六十六ヶ国にわかち。一国の内みて又郡といふ名をつけられしけり。これ皆又陰陽のなるぞ。

蟾蜍ふそら陰文胡弃諾胡弃冊とて婦変乃陰神おりしまん。此神ハ変手子立まるの変神七代目の陰神にて是神五代のとなるかくなみて又このせの。此神大のふらりきよにてましますなより。眉けぬ気にぬりすひ。おれも由といふものを握てみんと思ふ。天の浮橋八谷の鉾鈎よりも眩暉あれぞ今のしさんや乃橋の上より。鮫のうみ出ると

そして変らし余をとさぐりのみふかなにと
の滴こりかたまりて積となり積りたる。
白鮮の弘景文字といふ人これをきりわり
まて一町の里となれり。則日本のおのころせ
ふて壮仙婦州新吉原大月本宮と
名づけたり。今も係国をとめづるよりちかき
の内にて郭をかこみざれ此日本とも
遠ひて郭ハ昔く境識あり。郭の名も

時く経るまま或伊弉諾の逆鉾ハ大和
国へ投捨にす。其後との山を佐保山と云
川をさほ川といふ。逆鉾ハ元来竿乃
ごとし。神秘にてさほこと云なりし世ハ。
今保川ならびにて衆らいふ入し調にしてサホコ
と云なりし。ホコレケタカるといふがごとし。或又
彼名をバよし原とさんや橋の前へ投捨
すみ。今のさんやの土堤これなり。土手の上を

たとして通りしよりみやこの花と云しかど。
好世誤てまづとの花と冠辞にハ云なり。
さるみやこハ吉原の外へ掛すゆく日本
の地と定られたる。此方のみやこあれど月
本の内なりとて。伊弉諾と胡弉諾の争ひ
ありしより。今の世とも。からやといざこざ
とふやとかやされども此論ハ胡弉諾の掛
まひし堀の河しきゆく本。日本の地と

定りて縮りしかハあまねく日本堺とハ名
けたり
神風や伊勢の濱荻名をかへよし
原といふも河しといふも同しことなり
とハいへども河しものの中津国八日の事て
と称し。よし原の中の丁八月のかけまたる
かりてく。よし原廿日夜御ゑ晋子も
云出たり。夜河しの原八の絆の吉原のかり

うかれし心あるゆへ残鳥くしてまざとる

男子を嫌ぶよし其ハ病ごとのことなれど

まゆへあるがくして。中央に青市場

あり。此女を嫌ぶ。これ日本とハお月女を

まるがん裕の遠なれど。お月女の月乃

字と此娘のらんの字をとりて月本国

と名付けりといふ。これを又野菜国とも

よぶなり。其の野菜といふハ

△江甼國 高附十五郡

△角甼國 高附十二郡

△新甼國 高附十郡

○揚屋満池

○大門灘

△三甼國 高附十一郡

△京甼國 高附十七郡

○江甼二甼の二国を江おにはと云
京甼新甼の二国を京おに京はと云

○中之潮

○衣紋海

○伏見潮

○水道尻

●會所嶋

●九郎介島

●茶島 数多

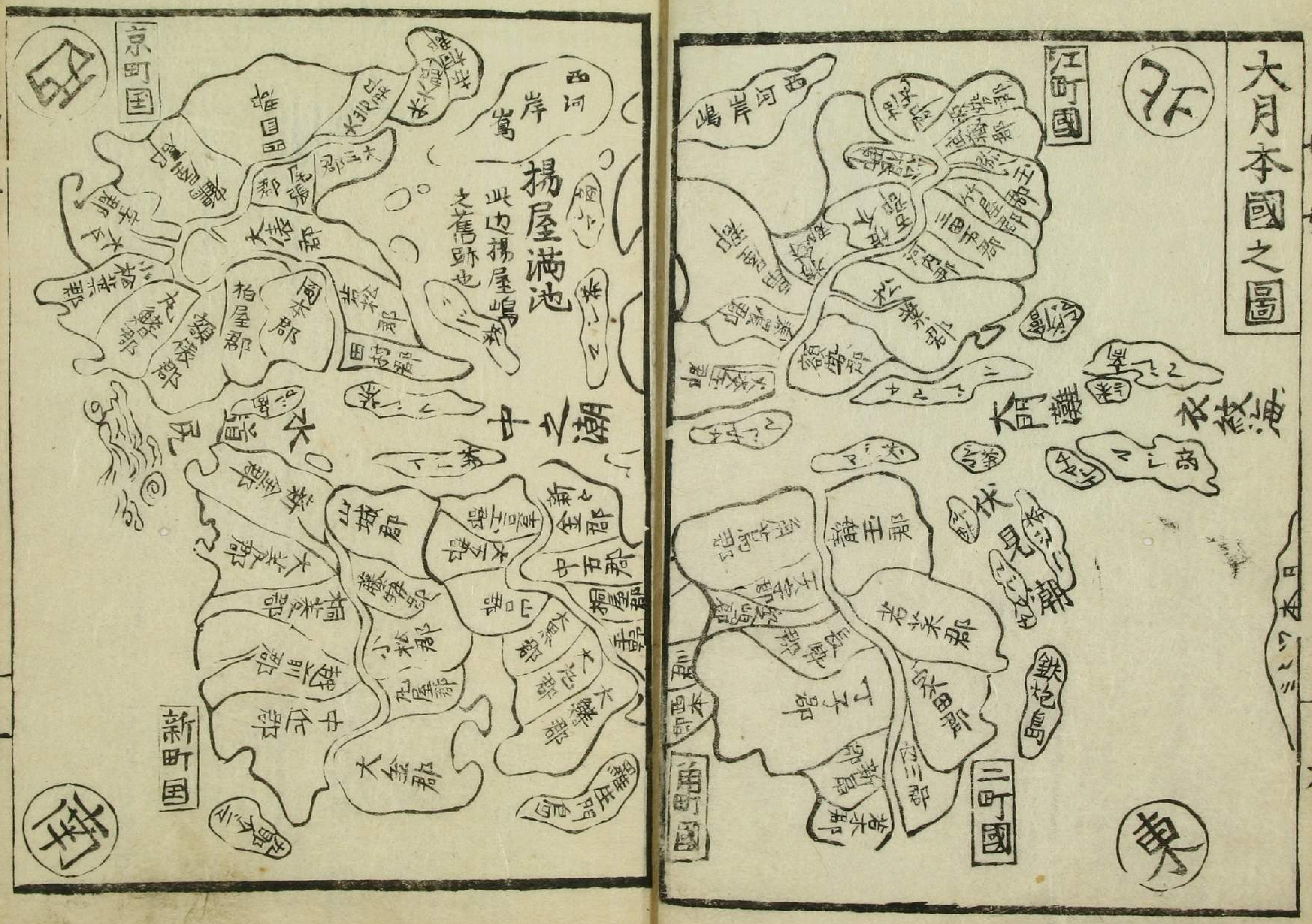
●商島 数多

●西河岸嶌 二島アリ 十余郡

●鉄炮嶋

●羅生門島

絶景ハ河うつ浪の音のさかし


京町国
新町国
江町國
三町國
南
東
揚屋満池
此辺揚屋嶋之舊跡也
中之湖
西河岸嶋
大門
衣紋海
鉄砲嶋
丁子郡
若菜郡
大和郡
山城郡
大黒郡
中の郡
大月本國之圖

月本國風土

此国の風土ハむかしより諸書にあらハし
尽されたれバ今さら新しくいふに及バずと
いへども手短にいはゞ男をいましめ
女をたうとび室をむすびて親を周ひ男の
夫婦にまじはるゆゑを標にし。女ハ放縦し男ハ
あひ婚姻の盃ハ男より初め。殊に席ハ皆
女を上とさん。是陰国乃いさをしとして。

月を崇めし月を敬ぶのためし。月本乃
本意なるべし。十五十三の二夜の月ハ嚴
為国中一の重き日とするも此国の名ゆへ
よりなるべし

五ケ国に一人ツヽの主を置。満月の使を表して
夕上王といふ。此の人謂りて今ハ名を合と
いへり。これ草書にて夕ハ王と書しを
名で王とよみあやまりしとかや。又五

州にハ一郡に一人ッての司あり。これ内所と
いひ且那さんといふ。一郡の司たるゆへ知恵
まんくとあれバ。一郡くの子等弥貫ゆへ。
一国に対してハきるつさるまるく。皆そんぐ
なきくく。日本人の目にハわきとしうるぬる
のこ多し。これ別国風ありといふ。又一郡ニ
一人ッて且那さんの下に立てちくくるとす
る老女あり。これをかりてと云ば友一ッ儀をと

おふ所て大切の掛りく。一郡の治めをかけりて
此儀の中或ハ肥或ハ志おむ。治めるくのよしあしに
ふるるまる。又あきゆへにふるるまるといふ。
又儀の口第にかごとくなれバ子等の口第かご
とく。儀のかられぬ时ハ子等の類がぬれるといふ。
いづれかりての華巾岩に男のなきと。川たに乃
あるはにあのなきハつまらぬ物と云りんろざれた
日本人の目にハ知らぬなるべし

凡そ男女ともに藝をたしなむべき事なるべく。
六藝に通ずるもの八十余人あり。孔子の門人六藝
に通ずるもの七十二人と言後に至てきこえしが。
此藝者の多きなることゝ聞て肝をつぶし。烏滸の
昆布売しと紫蘇毛の事をさゝげ物としるく。
何事かふるくさしとは古口なるなれど。此上
又何かと藝者が如くなるもしれれど。又此藝者
の外に詩歌連俳茶香鞠生花の数趣じく

何なりとたしなむ事甚しけれども。女むすめも又
たしなみやすし。これをしも風藝といふ。たとへ例
から止むといふはなかるべし。皆日本人に対し
て此のことと合せることもする藝にて。とかく
陰悪なれどもゆるやかにぬかるゝところ〆里
なし。日本にて八人をとるまでもつて其ハ流
行ませしといふなり。此国にて八古いつハ
きこへませぬといふ

人情を論せん。女ハ仁にして男ハ不仁なり。
女ハ父母兄弟の貧をきらひ。姉妹の中も
てむつまじく。親々の身上を肥さんと千辛
万苦して勤るといへども男ハその足ひなり
なく親方女衒ハいふに及ばず。君の君といへ
ども責陀多をかまへて人を操る乃ん
常なしとへ。仁義の心薄し。女ハ又義を
立るも至て甚し。指切髪切起請書

爪をはなし入墨をし。身体髪膚を二足三文
と軽んじ。和合の客の前へ饑迫ども合ゆれバ。
名済と諸なし及んでハ歯屎ぐちけなり親仁の
恰さしと云へともむさしとせず。礼厚なして
よく隔をもてなし煙草をのまするのうへ
さし祀すし。新造出る時ハ必縁入をなせり。極
是といへども狭量。客を送るの礼も訓練と
訓練にあらぬとそれしの節はり出智

惠ハ中橋とと日本の人ハ笑ふといへとも。日本の人此説をしる時ハいかなる智者も愚昧の膚にあちらの粋を吸れてたちまち知恵つく中の町にある。是月本玉の徒なるべし。此信の一字ハ等閑に解べし。卵の四角といふ本文ありといへとも。是小児輩の俗見智恵の極まる所なり云へるをきたゑ是の所なり。容貌うそハつらぬ傾城といふ句あり。是も又

一見識之孔子曰ちうらが信なれば先も信じちうらの嘘を稍く上て先の嘘の底節をみするハあつらしいなりと荘子の説ハちうらが通なれば先ハ誠しちうらが野暮なれば先ハ嘘しあくてちうちの虚実ハよしやげとなる釈尊ハ虚実ふとんぶなし先が虚でも今があれば実し先が実でもちうらが今がなければなんのへなと徒ちやと云

月本國地理

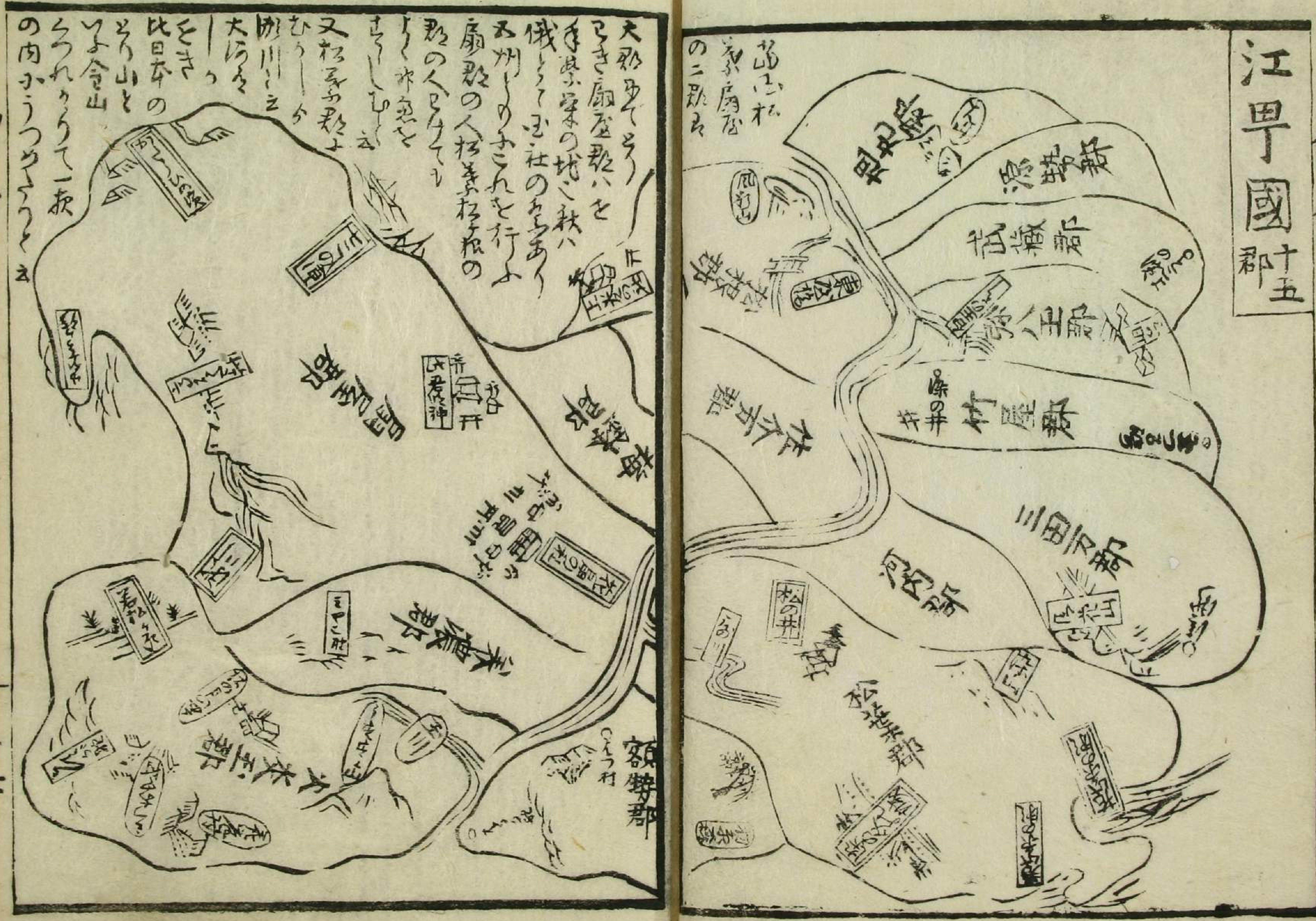
節用集首書曰

神武天皇日本の
かたちを見玉ひて
秋津虫のとなめに
似たりとて日本を
秋津洲と名付
玉ふ

此時月本国も人皇の
はじめ屁同甚栄武天
皇とありけるが御肉似をして
月本のかたちを見せ玉ふ
上手といふ字のかたちなり
けれども大におされのひ
別あき洲の如
きふでびらきれんすと名付玉ふ

江甲國 十五郡

大郡多てそう
?き扇屋郡八を
手県宗の地ハ秋八
儀ゟして玉社のあるあり
五州よりかこれを行よ
扇郡の人松善松子根の
郡の人ゟけてい
よく神忽を
きくしむ云
又松喜郡よ
むう一分
山川之
大河を
しっ
とき
比日本の
?り山と
いよ今山
?るれゟりて一楙
の内ふうつめさうと云



江甲國

五州とのふ中ふ一せしの大河をゑしてこれを安川とそり此川の右ふある郡を右川と云左ふあるを左川と云

右川 ○額勢郡

△初糸桜△たるが森△玉川村

○松茂郡

▲淨之助の城跡 此城あとのけしき世をめぐる哀ひしきせりみてなかめあり 似せ者の縁ふ日清ふ尓といふ文字を句のかみふ置て城あとの名跡よめとありしかた

掛のふりへてめでし花の色乃世を
ちりこしあとのけしきをぞおもふ

▲松の井 名水ありて功ゆ多く人のしるべ
あと書きのりし古ゑおよ
千代かけて栄ゆく末をすむ川のみふ
うみても忘るさ若みどりは

▲花盛の瀬 此瀬汐の引くふ隠てさぬくよ
おもしろく行くりさへあつきれの景地と云

に又汐のさし来てハ此ながめなほ此さしくる
汐を押(おし)わけこぎてかゆく舟の往き
浅き洲の影をめづらしと人やみん
ちるもしらさ絵をうつる藤なみ
△若葉の洲 △深山 △新川
○河内(かはち)郡
○三田万(みたまん)殿
▲浅花山 ながめよき山なれども意に添く
見てゆるむつまじき山也晴(せい)天にハ至て景(けい)色
よし
△清洲
○竹屋殿
△玉鶴ヶ崎
○孫八(やさ)玉殿
△深の井
▲白玉の橋 橋板(いた)の音多にふみならして面白く
▲拍子(ひやうし)あり此拍子にうかれて渡る人多し
▲新町 一下通りの町並(なみ)のゆかしけれども

家のたてくゝをとこあくる町く

○武蔵野 △こちよの濱

○源常野 △

○旭丸野 △たき山

左川

○犬吠玉郡

▲若松ヶ原 松の木立茂ふがごとし此の内へ
今日ふ游てみ給ありけがもる人をみ久まい
とい花京之於つくしる松く古あよ

さ後人のむかし一つの日と千代かけて
忍くまもしげき若まり川がくる

▲玉川 川あせて名の流れむかしより八細し
といへども代く名高き大河の名ハ今もかハりて
人もよく忘れる名ときかる

△こつあや村 △花山岸村 △うまさ墨山

△松の戸の寞

○笑濃野

▲みやこ野 若艸のみどりのながめやさしく
又花あり秋の千種の花の盛ハまことながき
ながめなりんと来るなり

○扇屋郡

▲花扇の社 当社ハ風流第一の御神也
されバ世まふ利生なあらたき境内のけし
きも神の御心にかなひて芸の道に得
の客を思ひ秋の月に連俳の士をまねひ

めでたかや芸能を学ぶ人ハ神祈てわすれる
末廣きたゝばの花をかためかく
風雅をなすとあふくかみ垣

▲かさゝひの濱 ちる屋のけしきゆくまと入て
たゝしらくるながめみあらび自然にまかりけて
其ま及びがたき景色なし
うたゝいのちをおしきけだたかりけて
みめかさしとちきりもちぬん

▲七たしが浦　ちかきやうにて西宮き浦く此浦
にて作る酒を七たし酒といふ日本にあまねくびんとして
そのほか甘味(あまみ)あり此破(ゑい)い川をもさかのぼり
あがゑびのりやみうしの松のよこし名
牧もあひらりあらこしの浦

▲瀬川　此川の瀬なりて今三代めの川
なのいきなひまくくさうんあり
瀬をたちみ揚るもちちみ瀬川の
岩ませなるしきみくにせなまりく

▲あらてる猪　名き名ゐあれど景色よし　係
くのあがめをそくんなり　まゐみあり

▲此君大明神　をきはあつより此所く末居え
うつしなる米膳智恩(ちぐ)のまかちなく利生(りしやう)
めつらかくにあらさし地利(ちり)ふ交(まじ)る神んなのなく

△なるたる村
○梅沢郡(むかなぎ)　○佐分万郡(さすけたま)

○松ケ根野

▲あげまきの社 此神まつりとまつるは
神さかしき嶽の明神と一躰分身にて雨を
このゝちにゆくに松が根野に結界ましまし
とて卯六の社をせんめの天ハ地の国の
傘百本はつくんとの古社に形あつりと云

△あつまや橋　△風坂山

右十五郡

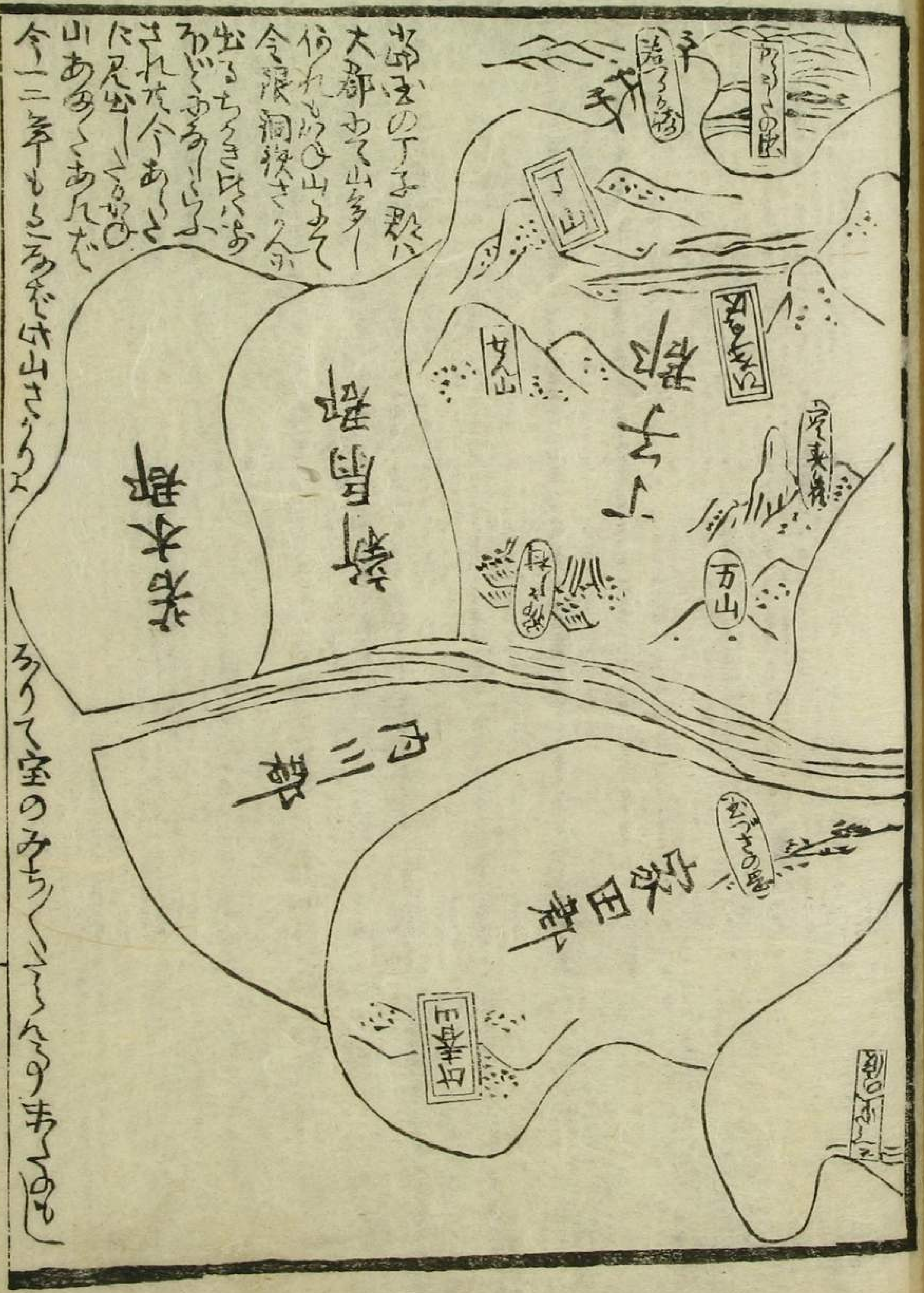
二早國

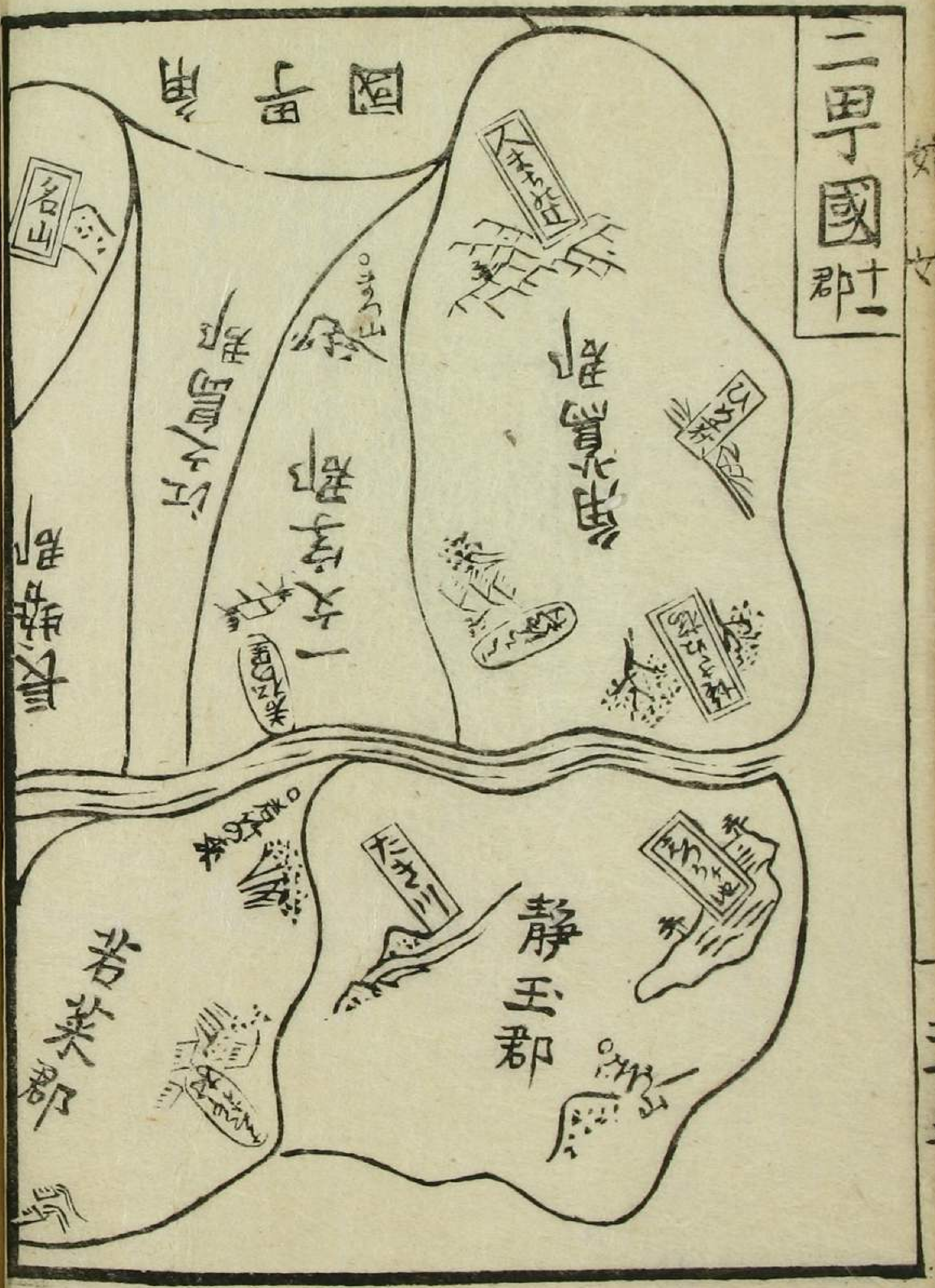
右川 ○角葛郡

▲人まちが辻 けふ名ある辻されどもひんらしくて
戸の口へ八むけともに一ツうけもちてもつんと寝
とたちぐく嶋まで
君が名をときくのさうつきさしつめく

▲除夜桜
きのふもつきせぬ人まち乃つらゝ
むかしより名あるきさ桜とこそへ哉

当国の丁子郡ハ
大郡にて山多し
何れも似○山にて
今阪洞探さん余
出るちくき比ハお
ねどふるしふ
されたり今あしさ
たえ出しておゐ○
山あまくあんだ
今一二年もところだけ山さうらえ
ろりて宝のみちくくさてんのまてもし





くさて此桜の代に及ぶよりつき枝葉しげき花の
いろを咲まがうかれめてなく見る人花の姿に
日の暮るを惜む

塩竈の名ハかわりしかど清く人は　角蔦
つら木の花乃さかりをとぞ見る

▲姫萩を代の名也し萩の上風とぞ小
よみしれど此萩の風ゑうハなかぬを
業せりしがらとゆかし

▲みちのく村
○一文字郡

▲松山 此山の松皆小松なれども末広く
うつくしくきれいなし
○江之鴨郡 ▲若松の里 ○長者郡

▲丁山 此山の花さかりには見物の人々入こみ
ふゆげしきたびひろし をよろずよそてながめる
○丁子郡

▲ひろ鶴ヶ浜 此浜のけしき 甚だおもしろし
孔明が八陣のごとくにて此浜に入る時ハ八方
角を失ひてわづらふかとしとぞ
▲名山 かくしぶのかりたすごき所あり深く
分け入てハ花のながめもなきなりまいとふ
一刻千金の詠し
▲千山 これも其の名高く右の花ハ咲けりさへ
くらしするや今若木なれどもつけへく

ながむる人多し ▲かうらの瀧 ▲雲井ヶ嶽
▲若山 ▲あしき戸村 ▲若鶴ヶ嶋
丁山夜月照千山 錦戸朝花映萬山
詩 祝若鷴雛鶴齒 豊春貢雪満名山
○新扇君 ○若木君
左川 ○静玉君
▲静が池 むかしより世に池の名高くかくしも
名どころの院風ありて其波をさそひゆへに静が池と

いふ今ハとりつぶし池の風情みえず此池の名と哉
此歌の名と共なるに此池の手がゝり無し一首よび
此池よりも重なるものあまりかゝしといふされども
ろしき池といふなし

波風も志川ざいけの月かげを
玉やうかむと人の見るらん 舞

▲瀬川 此川も水清くして静か池くみの清
きとあるそふけしきなり

▲志川山

○名草郡

△志々ゆふの浜 △吉田村 △かく濱

▲若竹の家 けしきもなく何事なきやうなり
されども人皆尺までなぐさむるハいとあるゆへに
やまかも名高き勝地あれどもこれまでハ見ハ
ぞ絶景の地回転に人の足ひ入るもハ帳ものぞ
の姿のごとくかしぎの一ツも

○家田郡

▲はなる山つらひもなく何るやなき山のけ
志きこれど此山をとみがむるがしために此郡ハ雨紀
ならくと春山如笑とて木の芽のきころに
を山笑ふといへども此山ハ四季ともに笑ふがご
とく人になれもある山也
え日やナ六の表山入名のあまれ
▲むづさの器里人の手入との上手なるゆくよ
ここと築きかしことをあちて をなめあるけ

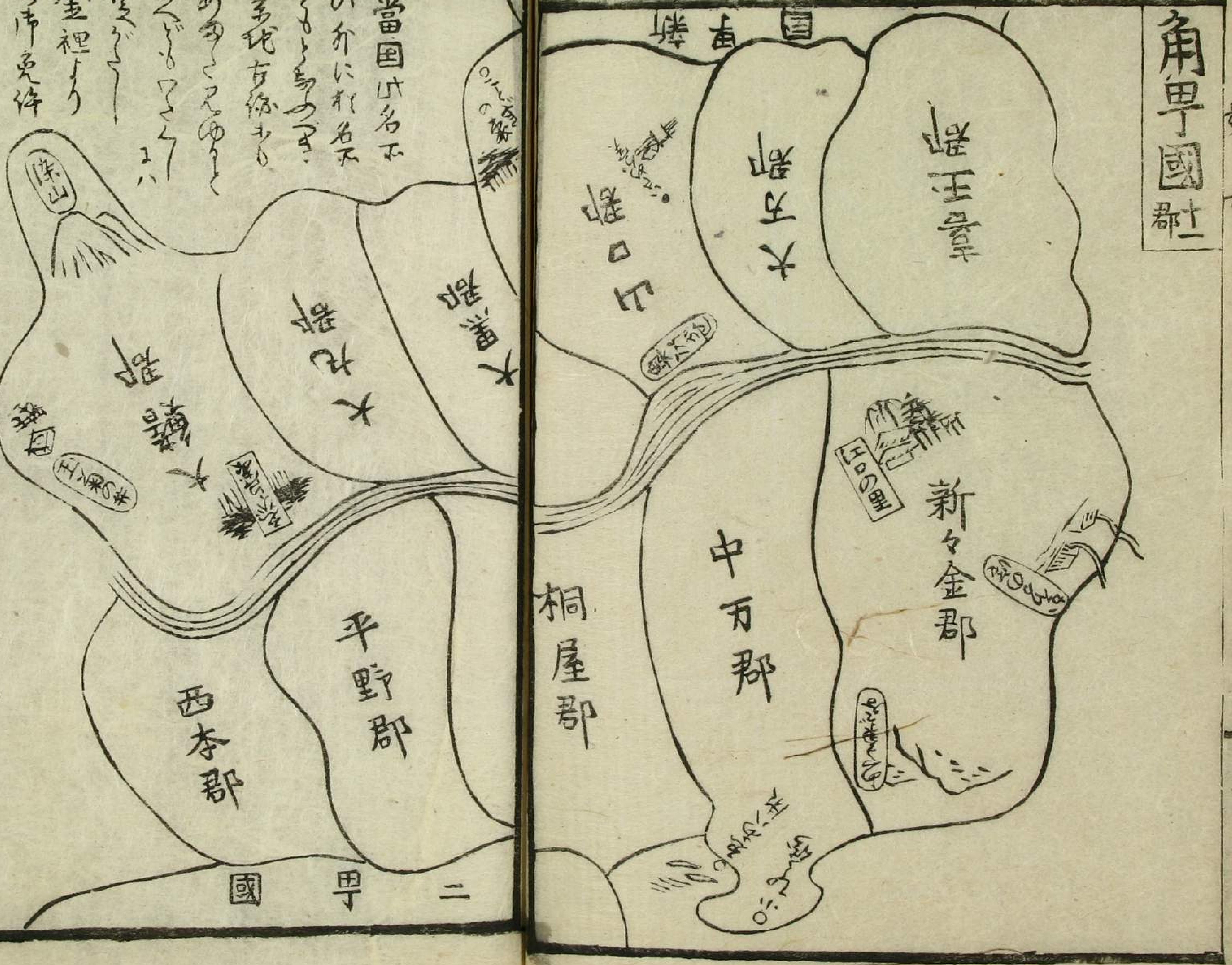
志きこして名をとハなりたり里人のたろ
めいとかなし
○内川郡
以上十一郡

角甲國

右川 ○喜玉郡 ○大万郡
○山口郡

▲奥列がふち 深川とひふ川の名なかれ来り

當国は名所
の外に名所
ともいふべき
業なる所なれども
あまた見ゆれど
のぼりかくれなく
定がたし　又ハ
金裡より
の佛免像
〻又ハ大見之人のはなはだよろこびまちて名残をたまふ



此所よりでまりてかちとある此深川のなかく流
るれど此かちのゝ名勝なり
△いさめが窟　△たゝやきの森
○大里郡　○大丸郡
○大鏑郡
△菊の井　此井世々つゞきて名多くむかし
よりの名よめで今も猶此名をよむ人多し
△ゑびらの森　△そめ山

左川
○新ゝ全郡
△かほるの濱　むかし此所の塩が多く塩木をとり
しとき名木ありて其臭のかほりをあたりゆく不
かほるのなといふ今も香氣あてえならぬ
よきかほりなされども此濱ハ風のうちよするび
くみて塩が多の煙ハ其なびき南みなびくる
まのうらとかくへいがごとし
△いや菊が谷　菊のあかめ見るすこし見る人

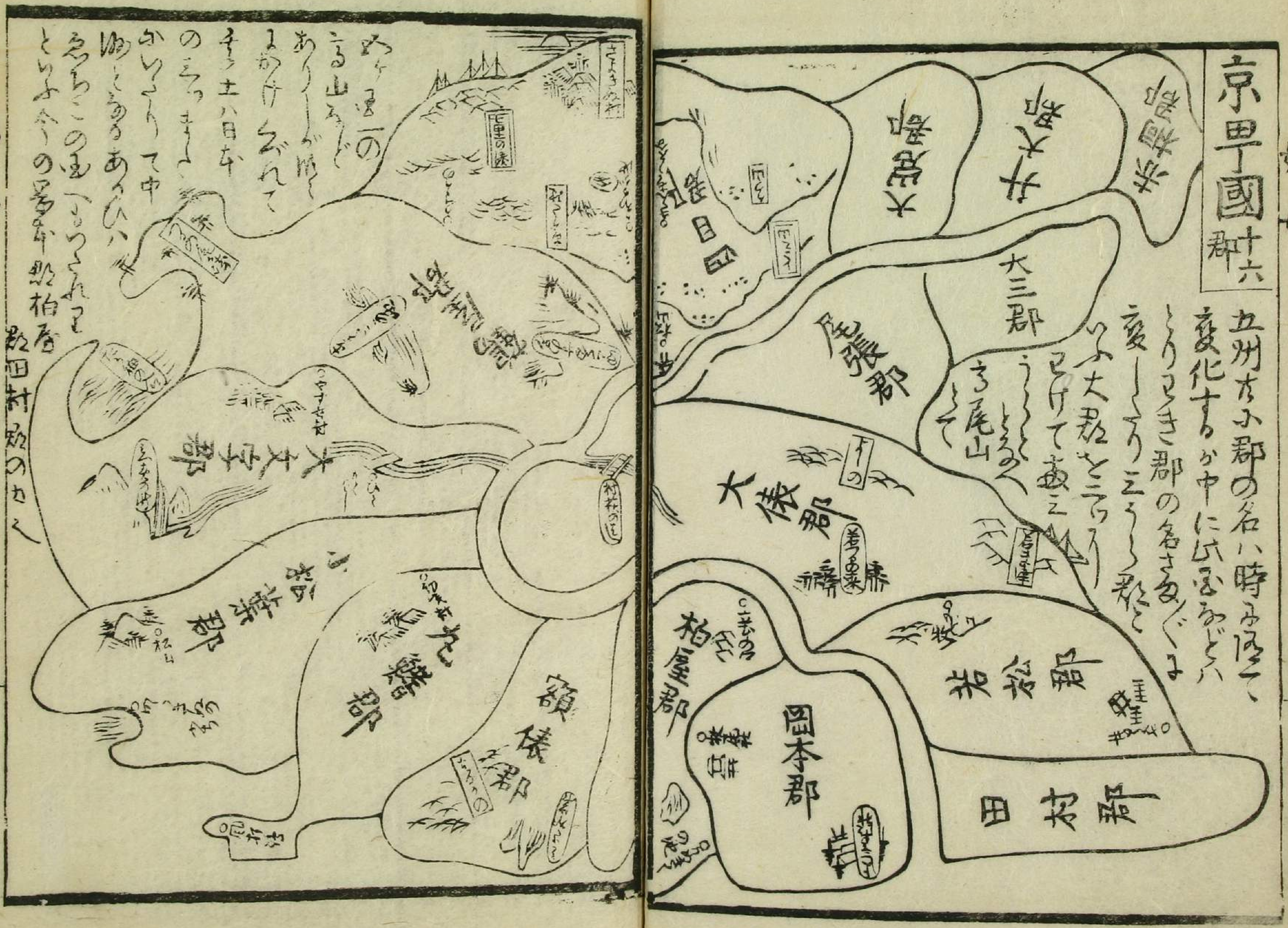
ゐを用ゆべしめしあやまりて此字に落入る
時ハあやちハ忘れぬべし
▲江口の里かりのやどりをおしむ君かなと西行
法師の詠ぜし余風今みのこりて里人皆
風雅を好みやさしく詞ふうどうなく和
歌を上手なり

○中万郡 △花也綾 △忍あハ濃
○桐屋郡 ○平我郡 ○西本郡

以上十一郡

京早國

○田村郡 右川
○若松郡
△つるの井 △もと牧
○大俵郡
▲若まつ津あつづきする染毒の地入和絶
ずの年を追て懈さうんあるべし


京早國
十六郡
大三郡
尾張郡
高尾山
大俵郡
柏屋郡
岡本郡
田村郡
大文字郡

▲よし野 是よりさき名所みえず たゞあまがめある みゆく
△若宮の森 △村おぎの橋
○尾張郡 ○大三郡
左川○呂本郡
▲よし高ゐ神 是作りよく境内きれいなる 景地く △中山の尾の社
○柏屋郡 △立花の江 △亀尾鳥池
○額俵郡

▲まるが野 此所八角蕎郡より おゝ草のさみをそろて 此みくまきほに土地よ合さるやな 此の名が多 よしまげる物をすみれども 人此所不遠んで時のうつるを忘する △みすゞせが岩
○丸鐙郡 △初咲村 △風折鶴
○小松原郡 △松山 △かうさぎの関
○大文字郡
▲其が袖の入江 ▲さ川寺の勝 此入江の波

岩が手に入るけしきよし又淡の海へ入江に流
落て生びに名勢をあらそふ風情いづれも
名だかきあり△ひとり橋△中ちかが村

○都留郡

▲つるの尾が嶺 遠目にみえてなるけしき行人みなへん
かうなる景地く

▲さゝ川の池 むかし此郡に菅の生ひしげる
原なり則菅原とて名高き景地なりしが
後田畑となりて今菅が此地に残れり菅原乃
旧跡なれば人此地に来るなり名だかき池く

△ゆききまんの岩

○四日郡

▲こみ山 つるひろく大せうある姿の山にて堂
てみれば名をさがうの風景頗も面白ふして奥山
のけしきをあらはせり
西くし四日目の雑ゑ流くぐと

思ひをそむる一乃しみ山
▲さよ衣村(ざな)口の名所にものくとがめけ
くなけしきさへる出みんだく人皆は村に中じくん
もとりをもし阿る旅(たび)人は夜に中ぶうて
今う路少おきぬむしの小おぎあつく
△え川山△たがし壁△きん若しが谷
△くゆるが池△かたそが野▲七さと乃湊(みなと)
此みなとハきぎは俄(にはか)に出来する地く伊達(だて)の
大船とに老は浦まそこむろがしといふ替と乗り
出せしかうつをがしよろもきくがよく不のくるほひふ
るりじゆくづらの帰りる浦々もおとくるしじとて
七さとの湊といふ千三百年もるまなだはうしの
繁栄(はんえい)なるがごとく未なり
七さとのみなとりさ風門(かど)出乃
仕合(しあはせ)与作(よさく)なりもより めや
○大岩(おほいは)郡○餅大(もちだい)郡○赤桐(あかぎり)郡

以上十六郡

新甲國

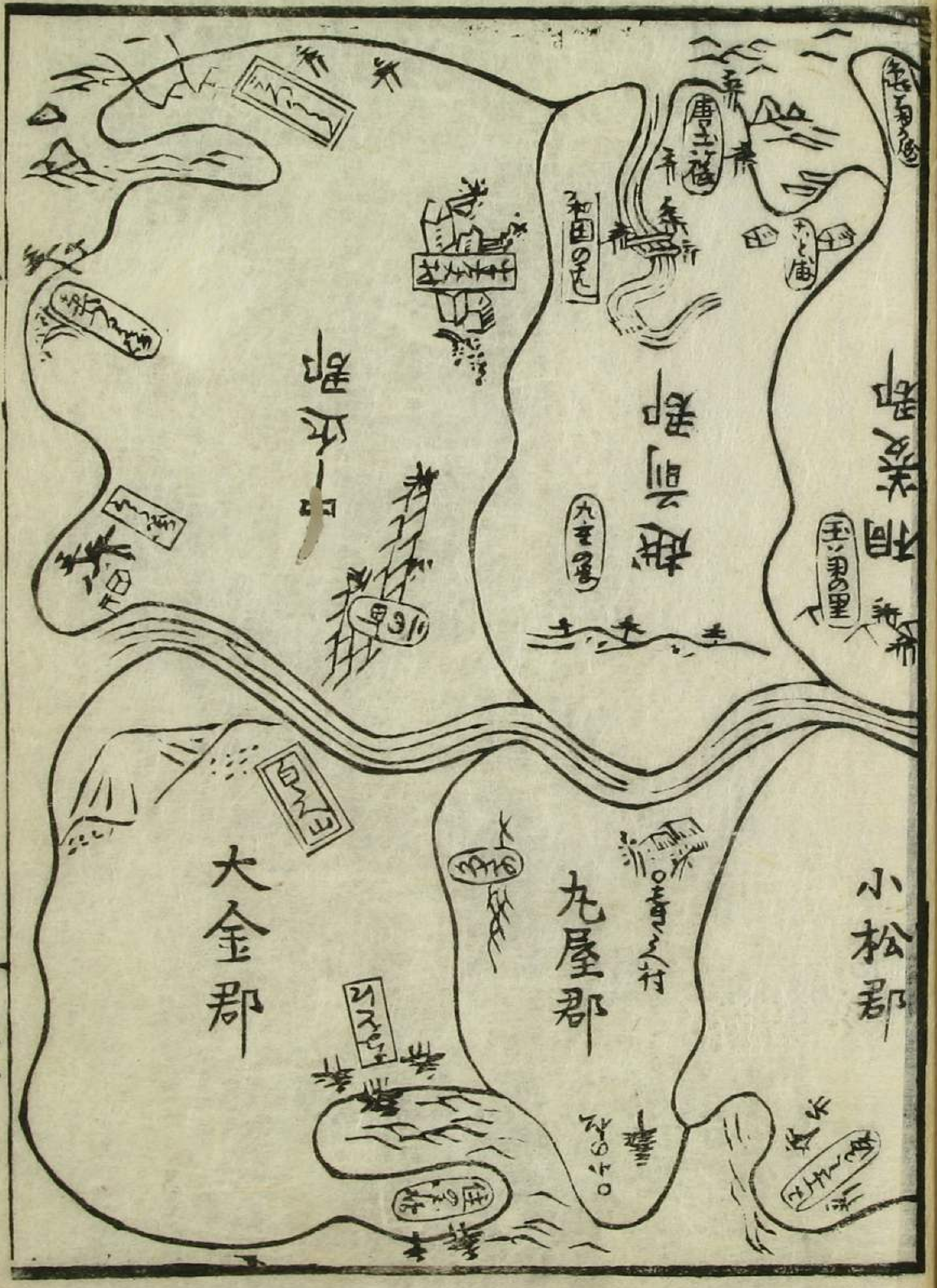
右川○金郡

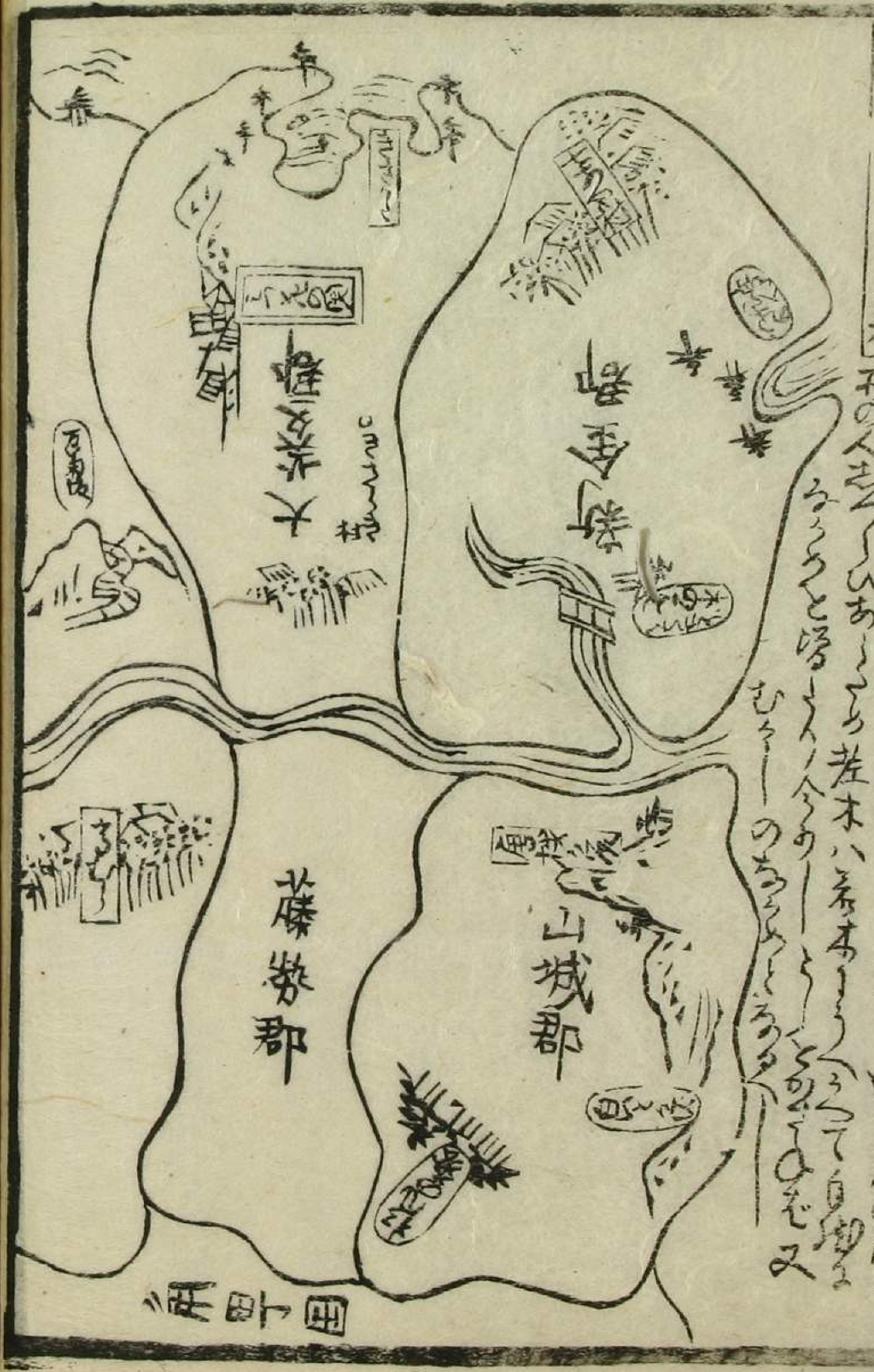
△七河や村　△足袋未の墻　△淳無入江

○大菱郡

▲日さ潟日本の象るハ三景まづきさる
精地も地もそ名をとらしてあらめ太るさる
まざあふ遊ぶ人素のほのむさくと云ふべし

▲みつ花の関ハ冥加ぎるて僧ハもちろん
医者にても長老にてもすべてあたまの丸き
ときてひて實を通るをゆるさざるにして
寺の留守ハ剃髪の通れハむつかしき中
にもけせきハかたく禁ずる事我まゝ氣づい
に似るれともこれが冥のあたりをはなれ
僧をめて醫者のそろ様ハそうるとも
世よ坊主の世きハゆるさじ





新田國十郡

元来築宗の志まて名所古跡多き所々を来備く乃けしきも收ちあれて風景おもしろしにかよりし又此ほとり所の人をもひあつめて花木八景あるまじくて自御まてみちのと浮ちん人々かよしらく所てひそみむかしのあるかくなる

△きさらぎ村　○桐菱野(きりびし)

△亀菊の松　○越前野(ゑちぜん)　△玉菊の里　△万菊坂

▲和国(わこく)の術は術をしらざる人甚しきあるべし
うらとしかれど篇なるの必定(ひつぢやう)く第てたる衣
るるさ合点して用ひて行くにそれぐると
しるべし　△こと浦　△すゞしが磯　△九重の景

○中近野

▲みつ浦はらくのけしきなるとおひらけて
目ふつく為みくつらまく人あも分れども行と
なくよ紀景色さされ赤風起り波さらし日
又青のおもふ時は前て春がめ近ある人の仕
合不仕合ありとしるべし
あふをなる御津のち衣ふはあり徐とを
名をあふみやなかよふらし風

▲かゝ橋 日本のかけ橋にたぐへる名也一本の松のきし花みなかれ落つきてとりのさゑのあいだめ来つかりとしてよしかゝ橋の松ハ古よりおふかりあてと雁の吟よ自然とかゝるを

▲米麦村ハ一村皆楽人也常に楽器をもてあそびて末も絶ると紅の鳥のさへづりにまかりを保ちとりし一真ある村也

△悪露ケ橋 △二の町

左川 ○山城郡

○茨督郡

○小松郡

▲かゝたきが嵓一たい山のけしきさながら嵓も平らゆるやかなる山也 △白糸が浜 △松風の森

▲高村 いにしへ今の京よりさるがめし小野乃篁参議に 初 後 名 宮 はな

をもて名とかへし △みし都の浜

○九尾郎

▲くさの末の君子が枯れそのけしきを見る
と端ありてよれなびく △小松

○大金郎

▲白妙山 ゆきふく小さき山なれ共四季ともに
雪のきゆることなし ゆゑに白妙山とよぶを
おかるともそれをどもえ白たへて 山の姿ハ
雪まてえりがたし 雲みえても雪の下に

さがしきもありてやくそくするてあんを
用也だしおりこれ山也
ひきつゝけきたらずもまよふ古の絵の郷
白妙山のゆきもしろたえ

▲さゝと江 溪きれいなるゆへおりもちて
あそぶなどこそあれ 深く入るる事の景色の
まさきあそびかゝるめまあつくをあるべし

△きくの戸鶴

以上十郡

右▲下五十六 △下七十一 右ハ五州の名所旧跡(めいしよきうせき)之

△下の分も▲下ふ分をりくつといふ事ハあれど

後編(こうへん)を待て御覧(ひらき)せんがためあらましをしるしくこゝろふ

おしきて

○揚屋満池(あげやまち)。いにしえハ揚屋町とて絶景(ぜつけい)なる

所ぐあまたありしが。波にかけらるゝにて。今ハ

茶所商人(あきびと)の残るばかりなりけるばかりにきるまで。

せめて一所ともなむらしのぞく。揚屋町を継(つき)

こゝさまも他国(たこく)のもとをいしぬ世俗みぐしる足之

○中之潮(しほ)。五州へつゞく所に皆此入海之末(のり)入之。

左右茶所多し

○伏見瀬(ふしみせ)。二町ほどの西東之。左右茶所あり

○大門灘(だいもんなだ)。夜役海(やくかい)中之潮へ入ル灘(なだ)之。此灘を

見ざれども五州へ入るあまたりし。婦人(ふじん)ハたゞ母をさて

くだらぬを毎日りてし

○衣紋坂。日本堤より月本へ入ル沙境あり。
○水道尻。中之町の末之波荒くして遊所を迴
○会所。大門際にあり。一国の出入をまもる
○九郎助稲荷。南の方にあり。稲荷の社をまつる
○茶屋あまた。此内に長とよぶもの
十二人ありと云
○商人。衣紋坂より初りて五州まで多し。
袖の梅。細見。鶴瓶そば。山屋豆腐。巻せんべい。甘

露殿。もろみ。中の月。安寧湯。此島の名産之
○西河岸。江戸町より揚屋町迄へかけて一筋。
揚屋町より京町へかけて一筋にて此島に住む
人南京ぎんを好て。五州の人をとり食ふ人
物ハ龍眼をくれ共荒身をかく目のなきもの
らしけれど借りて來るとゆる鼻毛を鼻筋
あれだに鍔のおくとかく芳粋の居ずを握ハ
ぬしのおく揃ハ氣任氣任りして中

俗の人と同じかりし
○鉄砲師ハ伏見海の末○羅生門師ハ二
甲田の京角男女新男なりける
師也しば江の遊女普賢菩薩とあらわれし
時あらるゝ女変じて此師となる。江の網よ
舟ハ百ぞうとありけるとき。油の掛底なる
女また。てツ鉄地を二軒にてつくりしと云。人物ハ
皆み新不具にして折合とりし。

先ツ鼻から先き嘴ちとして。ある州の人を
これを恐れてよりつかば此鳥の人白粉を塗
ほとし壁土のおとし。背中と面うけたて白
粉こゝろがりくを塗けて。赤鉢許のおときさ
頬骨あらわる。臭き煙草をのゝ鬼あらしを
あらわ。ある州の人あるをむけたるといふ。此師
人ハ何かじきりこがきてもむけるゝなり。ほし
これを尾にはして数珠のあらひといふなり

○砂利縣 ○田町縣 ○泥町縣 ○大温縣 ○舟病縣 これらハ日本堤をさして日本国のうちなりといへども。月本国の義をむすびて常に淫蕩さするもの多し。そさる月本国の。茶屋に住む人に大に同しくして少しく異なり

娼妃地理記終

跋

陰陽師不知身上○親之心子不知○女房色事亭主不知○堺町者不見芝居吉原者不買女郎○是謂之燈臺

本闇非下離其場看上何得評
物此書也予兩眼加於岡
眼八目以評之是十目所
視而無秋毫之私如所作
事之曰事也否處如此雖

謂高慢我身臭予不知
安永丁酉季冬此書作者
書于此書後

娼妃地理記後編

滸都洒美選（こと しゃ み せん）

右明年出板入御覧ニ可申候
そろつでたのしやみせんかく
出居候

板元

耕書堂梓